

「景観って、そもそも何だろう？」

日々の生活の中で、心の豊かさやゆとりを求める機会が増えてきていませんか？それらは、美しい景観や心安らく景観に出会うことでも育まれるものかもしれません。ここでは、そんな「景観」について、いろいろな視点からご紹介します。



音や匂いも「景観」のひとつ!?

皆さんは、「景観」という言葉をどのようにとらえていますか？ちよつと馴染みがないかもしれませんが、一般的には風景や景色と同じように使われています。しかし、もう少し広く考えると、目に見えるものだけでなく、音や匂いも含めた一体的な環境としてもとらえられるのです。

たとえば、目を閉じて印象に残る景色を思い返してみてください。

美しい「景観」は一日こつこつ成らず！

美しい景観は、そこに暮らす人や働く人だけでなく、訪れる人の心も豊かにします。そのためには、ここで生活するすべての方が「ま

岩槻らしさが感じられる公園を目指して

岩槻区役所のすぐそばに、素敵な公園が3月に完成しました。「公園づくりを通して、地域の輪や絆が感じられるようになりました」と語るのは、太田1丁目自治会長の石川公一さん。公園が整備されることを機に、自治会や住民が「城下町と人形文化など、岩槻らしい景観が感じられる公園にしたい」と考え、市



自分たちで「景観づくり」をやってみました!

愛着と誇りのもてる公園を創る！
旧秋葉邸裏小路公園
ワークショップの取り組み

とともにワークショップを重ねました。このワークショップとは、地域の人たちが参加し、意見や提案をまとめる共同作業の場。公園内の枯山水の配置やユニークな遊具、案内板や記念碑など、一つひとつ検討を重ねて創り上げたのです。

後世に残る景観を自分たちで守り育てる

「まるで、自分たちの庭ができたような気持ちです」と語る

ちはみんなの共有の財産」と考え、協力し合いながら景観を創り、育て、守り、そして次世代につなげていくことが大切です。このことによって、まちにますますの愛着と誇りを持ち、それがまちの魅力を支えることに繋がります。こうした循環が、これからのまちづくりには求められているのです。



たとえばこんな都市景観

歴史文化景観



(見沼通船堀の開門開閉実演)
歴史あるまちなみや街道など、有形の歴史文化・財産がつくる風景

自然景観



(見沼田んぼでの田植え)
自然のままの山崎川、人の手によって生み出された農地などの風景

暮らしの景観



(与野公園の「ばらまつり」)
人々の暮らしが見せる活動や祭りの様子、懐かしく浮かんでくる心象風景

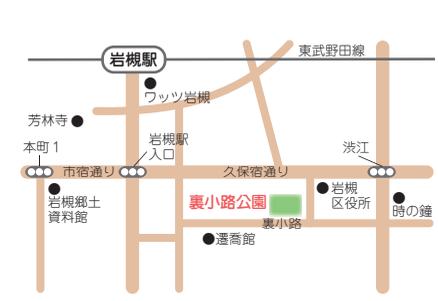
市街地景観



(武蔵浦和駅周辺のまちなみ)
住宅や商業施設をはじめ、公園や道路などで形成されたまちの風景



▲入口や滑り台など、至る所に地域の方の想いが注がれた岩槻人形が。その愛らしい姿が、訪れる人を和ませます。



▲「雞めぐり いにしへの水辺」をテーマに、風情ある枯山水が配された「旧秋葉邸裏小路公園」。今後も、住民自ら参加し、協働により管理を行っていきます。

石川さん。10年以上前から「景観形成勉強会」を立ち上げ、岩槻の歴史や景観について勉強してきた成果が活かされました。「地元、そして日本の良い文化を、この公園から子どもたちに伝えていきたい」。このような願いが込められています。